

平成28年度

町政功労者表彰

問 総務課 庶務人事係 ☎62-9322



11月4日(金)に、平成28年度町政功労者表彰式が役場で行われました。公益に寄与された3名の方が表彰されました。

【写真】

前段中央
川窪 純光さん
(北原さん、
藤沢さんは欠席)

◆北原 芙美子(乙事)

本郷小学校の学習田として40年程利用され、また、冬場はスケートリンクとしても利用されている土地を町に寄贈された。

◆川窪 純光(上葛木)

私財を町立富士見中学校の除雪機購入費用として町に寄附された。

◆藤沢 昭和(東京都)

私財をふるさと納税制度(ふるさとみらい寄付金)として町に寄附された。

(順不同・敬称略)

ふるさとのみなさんへ

東都高原 富士見会だより



小池 利彦
東京都在住
(本郷地区出身)

「おっこう」考

本郷中学校から、新設された高原中学校の二年に編入した時「おっこうだなあえ」といったら、隣村から来た同級生に怪訝な顔をされた。意味が通じなかったのである。

ところが今や「おっこう祭り」で若い衆が踊り狂い、幼い子供までが「おっこう」を連発する。「おっこう焼き」まである。

「おっこう」という言葉が仏教用語の「億劫」から来たのは周知のことであるが、今では「面倒くさい」の意に使われる。「劫」はとても長い時間という意味で、「億劫」はとても長い時間の一億倍なので気の遠くなりそうな長い時間が「おっこう」ということになる。ここから、何ともすごい事を「おっこう」と言うようになり、こんなすごい事は考えるだけでも面倒だということで億劫という言葉になったらしい。仏教の本によれば「一劫」は、百年に一度、天から舞い降りる天女が、羽衣で大きい岩を一度だけ撫でて天に戻る事を繰り返して、岩が擦り切れるまでの時間だという。計算すると四十億年だそうだ。これの一億倍が億劫だから「えーと・・」こんな「おっこう」な事は考えるだけで「億劫」だ。

姉妹町 西伊豆だより

第12回ふるさとまつり

11月13日、宇久須の黄金崎クリスタルパーク駐車場で「第12回ふるさとまつり」が開催されました。会場には42のブースが並び、特産品や地場産品を使った料理などが販売されました。毎年、恒例となったサンマの無料サービスでは地元のサンマ船が釣った約1,000匹のサンマが振る舞われ、焼きたての味を楽しみました。

富士見町のブースでは開始前から新鮮な高原野菜や漬物を求めて行列ができ、来場者の一番の人気を集めていました。特設ステージでは、地元の郷土芸能や園児の踊りのほか、富士見町から富士見太鼓が迫力ある演奏を披露しました。勇壮な太鼓や心地よい笛の音色が響き渡り、会場につめかけた人たちを魅了していました。

富士見太鼓のメンバーの皆さん、力強い演奏を披露していただきありがとうございました。

